

連載：各駅停話

(各駅停話)長津田駅 宿場町、34年かけ再開発

日高敏景 2016年4月7日15時15分



東急線のホーム越しに見えるタワーマンション。右手を走るのはJR横浜線＝横浜市緑区長津田4丁目

「ながつだ」と読む人がいるが、「ながつた」が正しい。江戸時代から大山街道の宿場町として栄え、旅人の足元を照らした常夜灯が今も残るなど、歴史を感じさせる街だ。東京・八王子と横浜を結ぶ、1908年開業のJR横浜線との乗換駅でもある。

父親の代から62年、駅近くで電器店を営む田村紘一さん(74)は「小学生の頃、街道沿いには旅館があった。暮れには『市』が立ち、とてもにぎわった」と話す。街道が通る南のJR側には、創業

100年を超える文房具店や和菓子店などの老舗が今も店を構える。

一方、田村さんの店がある北の東急側の地域は「当時、一面の桑畑だった」。それが66年の東急線開業の頃から一変。家が次々と建ち、越して来る人が増えた。34年にわたる再開発の末、3年前には商業施設などが入る28階建てタワーマンションも完成した。

田村さんは「いま商店街はどこも厳しい状況だが、ここは若い後継者も多い。みんなが地元の人との信頼関係を大切にしながら頑張っている」と言う。商店街の組合事務所の一部を保育園に使ってもらっているのも、「地域のために」という思いからだ。(日高敏景)

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.